

安心!!

安全!!

野菜を作ろう!!

新鮮!!

おいしい

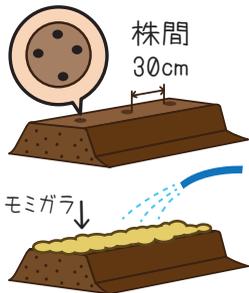


おいしい大根を作ろう!!

日本を代表する野菜
品種の多さもピカイチ

栽培のポイント

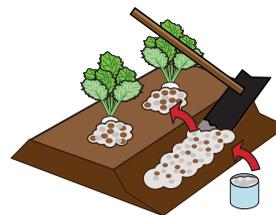
1. 連作障害は少ないが1~2年あけるほうが良い。
2. “根っこ”を収穫して食べる根菜をつくる場合は、畝の地表全面に元肥を散布する全面施肥を行う。



●種を植えよう!!

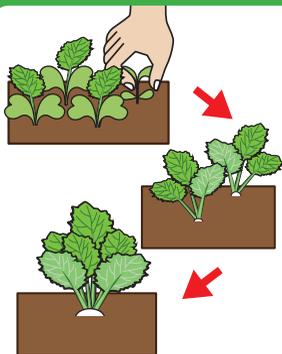
植付けの2週間前に1㎡/100~150gの石灰を施し、良く耕します。植え付けの1週間前に1㎡/堆肥2kg、化成肥料100gを地表全面に散布して、畝を作ります。底が平らな缶やビンを土に押しつけて株間30cm 深さ1cmほどのまき穴をあけ、種を4~5粒の点まきにします。覆土した上に土が隠れるくらいにモミガラをのせ、たっぷり水をやります。

●追肥は大切!!



2回目の間引き後に株のまわりにばらまき、軽く土と混ぜ合わせます。
3回目の間引き後に畝の片側にばらまき土寄せします。その半月後に反対側に同じように施します

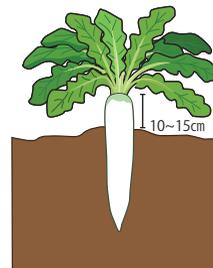
1株当たり(目安) 1回目…化成肥料6g、油粕5g
2回目…化成肥料12g、油粕20g
3回目…化成肥料25g



●間引きをしよう!!

1回目は本葉1枚の頃に3本に、
2回目は本葉3~4枚の頃に間引きを行ない株元に土を寄せ、倒れないようにします。
3回目は本葉6~7枚の頃、1本にします。
生育期に子葉の形が整ったものは根形がよく、整わないものや大きすぎるものは根の形も崩れやすいので子葉のよいものを残します。

●収穫



タネまきから約60日後、青首ダイコンでは根の直径が6~7cm、ダイコンが10~15cm以上地上に飛び出てきたら、収穫期です。収穫は、葉をそろえて根のつけ根を持ち、まっすぐ引き抜きます。

収穫のポイント

収穫が遅れると、“ず”が入ってしまうので、
がならず適した時期に収穫しましょう。

栽培カレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			種まき			収穫					
								種まき		収穫	

